

公益財団法人 にいがた文化の記憶館
2019年度（平成31年度・令和元年度）事業報告
平成31年4月1日～令和2年3月31日

1. 概況

展示事業 2019年度（平成31年度・令和元年度）は6本の企画展示を開催しました。6本のうち2本「にいがたの映画人 第1部・第2部」は「第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会」（以下「国文祭」）のプレイベントとして、「病とたたかう—近代医学と新潟県人」は天皇陛下御即位記念として、「国文祭」の主要イベントの一つとして開催しました。

6本のうち2本は新潟日報社ゆかりの文化人の展覧会「坂口安吾と新潟日報」、「吉沢久子・古谷綱武展」を館内の一部で展示しました。

常設展示では、文化功労者1名（佐藤忠男氏）のパネルを作成して追加展示しています。

2019年度の年間入館者総数は4,179人（うち有料1,936人）でした。

I. 「マンガとはナンダ 児童マンガの世界から」

平成31年4月2日（火）～令和元年5月26日（日） 48日間

入館者数 782人（うち有料359人）

II. 「にいがたの映画人」

令和元年6月8日（土）～8月25日（日） 66日間

入館者数 981人（うち有料531人）

第1部「新潟に残る東映動画の足跡」

令和元年6月8日（土）～7月15日（月・祝） 33日間

入館者数 496人（うち有料258人）

第2部「東映社長大川博と銀幕のスター」

令和元年7月19日（金）～8月25日（日） 33日間

入館者数 485人（うち有料273人）

III. 「病とたたかう—近代医学と新潟県人—」

令和元年9月10日（火）～12月1日（日） 72日間

入館者数 1,624人（うち有料731人）

III. 併催「坂口安吾と新潟日報」

令和元年11月1日（金）～12月1日（日） 27日間

IV. 「新潟の米と酒」

併催「吉沢久子と古谷綱武」

令和2年1月21日（火）～令和2年3月15日（日） 48日間

入館者数 431人（うち有料315人）

これら企画展示で47人の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。

教育普及事業 定例の作品解説会「月いちレクチャー」（原則：毎月第4土曜開催）のうち3回は外部

講師を迎えての特別編を開催しました。加えて、4本の企画展示関連事業を開催しました。参加者総数は551人（前年度474人、前年比116%）で、内訳は「月いちレクチャー」が121人（前年度198人、前年比61%）、企画展示関連事業は430人（前年度276人、前年比155%）、館外活動としては、館長連続美術講座1テーマ（「古都の仏たち 會津八一のうたとともに」）と講演会で568人（前年度1,348人前年比42%）、小中学校などによる団体観覧（総合学習含む）では30校・団体のべ724名（前年度26校、651名、前年比4校増、来館者数111%）が来館しました。特に、4月から6月にかけてと10月から11月にかけての校外学習で多数の中学生が来館しました。館外では、新潟日報やフリーペーパーへの寄稿、館長連続美術講座や事務局長による講演会などを行いました。令和2年2月以降は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため事業を延期または中止しました。

調査及び研究・研修事業 文化人データベース構築作業を進めました。また、当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加して、顕彰施設や団体と交流しました。

広報 27年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NSTの3団体から助成または共催をいただき、企画展示ごとに新聞広告やテレビCM、ラジオCMで広報を展開しました。ホームページやFacebookでの発信に力を入れました。

2. 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業参加者総数
241日／366日間	125日／366日間	4,179人	1,936人	551人 (作品解説会および企画展示関連事業)

※平成30年度実績：開館日256日間 入館者総数3,616人 普及事業参加者総数474人

※30年度は貸館なし。

3. 展示事業

① 常設展示

クール	テーマ名	会期	開催日数	備考
前期	① 受賞者「歌会始とにいがたの文化人 歌人・坂口謹一郎」 ② 医学「努力と信念の人 平澤興」 ③-1 新潟の女性「少女マンガと女流マンガ家たち」*1 ③-2 新潟の女性「東映動画と少女」、『なつぞら	4/2(火)～ 8/25(日)	114	*1. ③と④は企画展示「マンガとはナンダ 児童マンガの世界から」の関連展示(展示期間:4/2～5/26) *2. ③と④は企画展示「新潟の映画人」の関連展示(展示期間:6/8～8/25)

	ら』と東映動画」*2 ④-1 美術「風刺画の世界」*1 ④-2 美術「若者ファンと東映動画」、「落谷虹児と東映動画」*2 ⑤ 文学「歌会始とにいがたの文化人 會津八一・堀口大學・宮柊二」 ⑥ 中国学「諸橋轍次『大漢和辞典』全13巻」			
後期	① 受賞者「歌会始とにいがたの文化人 歌人・坂口謹一郎」 ②-1 医学「中央医学界で活躍した新潟県人たち 平澤興」*1 ②-2 医学「脳神経解剖学の権威 平澤興」*2 ③-1 新潟の女性「産婦人科医 高橋辰五郎・荻野久作」*1 ③-2 新潟の女性「女性と医療—産婦人科医 高橋辰五郎 荻野久作」*2 ④ 美術「医学を助けた三芳悌吉の顕微鏡図」*1 ⑤ 文学「歌会始の選者 宮柊二」 ⑥ 中国学「諸橋轍次『大漢和辞典』全13巻」	9/10(火)～ 2/3/15(日)	127	*1. 企画展示「病とたたかう—近代医学と新潟県人」の関連展示 *2. 企画展示が変わったことにより、資料を一部替えて展示
通年	文化勲章(10名) 文化功労者(15名) 人間国宝(5名)	4/2(火)～ 2/3/15(日)	241	文化功労者1名(佐藤忠男氏)の紹介パネルを追加

② 企画展示

I 第34回国民文化祭・にいがた2019 第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会 応援事業

「マンガとはナンダ — 児童マンガの世界から」

会期	平成31年4月2日(火)～令和元年5月26日(日) 48日間
主催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	新潟市マンガ・アニメ情報館、新潟市マンガの家、にいがたマンガ大賞実行委員会、寺田ヒロオ研究会、新潟市潟東歴史民俗資料館、新潟市立図書館、新潟県立新潟中央高等学校、新潟県立新発田高等学校同窓会、新潟市歴史博物館、新潟市美術館、新潟かみしばいクラブ
趣旨	マンガとアニメはいまや、クール・ジャパンの日本を代表する情報産業の一つ。戦前・戦後に子どものものであったマンガは、雑誌の隆盛とその後の映画やテレビの映像技術の発展により、子供だけのものではなくなった。大人向けの恋愛ものや、内外の歴史や時事問題を背景においた作品、さらには日本経済を解説する“学術的”分野まで拡張している。 本展では、平安期の鳥羽僧正作とされる《鳥獣人物戯画》から江戸期の北斎漫画そして太平洋戦争前後の田河水泡の『のらくろ』、さらに昭和期の手塚治虫の『鉄腕アトム』という漫画の歴史を概観。この潮流のなかに新潟県ゆかりの漫画家が活躍しており、その代表者として寺田ヒロオ、赤塚不二夫らの作家とその作品を紹介した。
紹介文化人	寺田ヒロオ(新発田市)、赤塚不二夫[新潟市]、聖悠紀(新発田市)、魔夜峰央(新潟市)、小林まこと(新潟市)、近藤ようこ(新潟市)、高野文子(新潟市)、安田弘之(新潟市)、小川悦司(長岡

	市)
協力団体 及び個人	展示協力と同じ
展 示	<p>1. マンガのはじまり 戦前から戦後へ 児童マンガ前史として、擬人化された動物を描いた《鳥獣戯画》に始まり、吹き出し（バルーン）を最初に取り入れたマンガ『正チャンの冒険』、童画スタイルによる漫画絵物語『赤ノッポ青ノッポ』や、新聞長期連載漫画のレコードホルダー『フクちゃん』、児童マンガというジャンルが開拓され爆発的な人気を呼んだ『のらくろ』などの資料を展示した。</p> <p>2. 手塚治虫以降のマンガ家たち 手塚治虫とトキワ壮の住人たち（寺田ヒロオ、藤子不二雄、石ノ森章太郎、水野英子、つのだじろう〔トキワ壮通い組〕）らの資料を展示。</p> <p>3. 新潟ゆかりのマンガ家たち 寺田ヒロオ、赤塚不二夫、聖悠紀、魔夜峰央、近藤ようこ、高野文子、小林まこと、安田弘之、小川悦司らの資料を展示した。</p> <p>・「美術」コーナー展示 風刺画の世界 マンガの起源が、ある特定の人物の表情や身体的な特徴をユーモラスに誇張して描き、社会や政治への批判精神から生まれた一枚ものの風刺画にあることを紹介しました。また、日本の政治風刺漫画の元祖、北沢楽天や岡本一平の資料などを展示した。</p> <p>・「新潟の女性たち」コーナー展示 少女マンガとマンガ家たち 女流マンガ家たちが目指したストーリー漫画の道標となったのが手塚治虫の『リボンの騎士』であることを紹介し、1970年代に少女漫画の革新を担った竹宮恵子など「花の24年組」の作品を中心に展示した。</p>
関連事業	<p>① 月いちレクチャー特別編 講演会「新潟におけるマンガ・アニメ事業の現状—地方からの挑戦—」 参加者数：23人 開催日：4月27日(土) 会場：当館 講師：坂田文彦氏（新潟市マンガ・アニメ情報館 統括館長）</p> <p>② 月いちレクチャー特別編「なつかしの紙芝居」 参加者数：28人 開催日：5月25日(土) 会場：当館 実演：新潟かみしばいクラブ</p>
広 報	<p>・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）8,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部：県内顕彰施設や図書館などに発送</p> <p>・新聞広告：新潟日報（7回掲載）</p> <p>・テレビCM：NST</p> <p>・ラジオCM：BSNラジオ</p> <p>・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント、新潟文化物語</p> <p>・雑誌等：「新潟文化情報誌カルチャーにいがた」、「M-Walk」、「月刊キャレル」（イベント情報）</p>
掲 載 記 事 または番組	<p>4月24日(水) 新潟日報「貴重な直筆漫画楽しんで 新潟文化の記憶館で企画展」</p> <p>5月3日(金) 新潟日報「マンガ王国新潟 アピールが必要 マンガ・アニメ情報館 坂田館長講演」</p> <p>5月17日(金) 新潟日報おとプラ「なつかしの紙芝居」（メディアシップウィークリー欄）</p> <p>5月21日(火) 新潟日報ふむふむ ふむふむ連絡帳「にいがた文化の記憶館で『マンガとはナンダ』展 鉄腕アトム、サザエさん…本やパネル 楽しく」</p>
入 館 者 数	782人（うち有料359人）
総 括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	<p>○ 評価点</p> <p>・ 神林恒道館長から執筆していただいた解説文を下に作成した5種類の系統図が、好評だった。</p> <p>・ 日本の漫画の元祖の鳥獣戯画から日本のマンガの系譜をたどった上で新潟のマンガ家を紹介するという、他に例のない内容での展示ができた。</p> <p>・ 4月に開催した月いちレクチャー特別編「新潟におけるマンガ・アニメ事業の現状—地方からの挑戦—」の参加者から「新潟におけるアニメ・マンガ事業を知るよい機会になった。マンガ・アニメが地方でどう展開しているのかはあまり知られていないことなので、とてもためになった」（20代、男性）などの感想をいただいた。</p> <p>・ 5月に開催した月いちレクチャー特別編「なつかしの紙芝居」では、「昔なつかしく、思い出しつつ、歌ったり、楽しい時“若返って”よかった」（70代・女性）などと好評であった。</p>

	<p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を借用、展示するハードルが高い場合があり、展示で紹介する作家の選択に時間がかかってしまった。過去の展示で経験したことのない領域を扱う際には、早めに専門家に相談するようになりたい。
担 当	伊豆名 皓美、石垣 雅美

II 第34回 国民文化祭・にいがた2019 第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会プレイベント

「にいがたの映画人」第1部「新潟に残る東映動画の足跡 — 新潟大学人文学部メディア・表現文化学プログラムとの協同企画」、第2部「東映社長大川博と銀幕のスターたち」

会 期	令和元年6月8日(土)～8月25日(日) 64日間 第1部：令和元年6月8日(土)～7月15日(月・祝) 32日間 第2部：令和元年7月19日(金)～8月25日(日) 32日間
主 催	にいがた文化の記憶館、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
後 援	新潟県
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
協 力	新潟大学人文学部、新潟大学環東アジア研究センター、新潟大学アニメ・アーカイブ研究センター、新潟市中之口先人館、麓谷虹児記念館、坂本文巳男コレクション、新潟娯楽映画同好会
趣 旨	<p>1951(昭和26)年に東映を創立し、初代社長を務めたのは、新潟市西蒲区出身の大川博(1896～1971年)。鉄道官吏から東京急行電鉄を経て、映画人となった。大川は会社経営だけでなく、プロデューサーとしても手腕を発揮して、「赤穂浪士」などの映画を製作。また中編の娯楽映画を3本立てで上映し、大ヒットさせた。1956年の新潟東映会館オープニングでは俳優の大川橋蔵らと出席している。同年「東洋のディズニー」を目指して東映動画(現東映アニメーション)を設立。設立時に参加していたのは抒情画家の麓谷虹児(新発田市出身)であった。</p> <p>本展は第1部「新潟に残る東映動画の足跡」(新潟大学人文学部メディア・表現文化学プログラム・石田ゼミとの協同企画)と第2部「東映社長 大川博と銀幕のスターたち」の2部構成で、にいがたの映画人たちを紹介した。</p>
紹介文化人	大川博(新潟市)、麓谷虹児(新発田市)、近衛十四郎(長岡市)
協 力 団 体 及 び 個 人	協力と同じ
展 示	<p>第1部では、石田准教授とゼミ生が主体となり展示構成し、当館学芸員が展示支援をした。ゼミ生は3班(「麓谷虹児と東映動画」、「1950年代の新潟市の映画館」、「坂本コレクションから振り返る東映メモリー」)に分かれて調査し、展示計画を立てた。また、相関図やパネルなどを作成し、当館学芸員がデータに起こしパネルとして展示した。</p> <p>第2部では、坂本コレクションと新潟娯楽映画同好会が所蔵するポスターから、大川博社長時代の東映娯楽映画を紹介した。あわせて、新潟出身の銀幕スターとして近衛十四郎(長岡市)も紹介した。また、新潟東映ホテル様にご協力いただき、大川博が出席したオープン式典などの貴重な資料を展示した。</p>
関 連 事 業	<p>① 新潟大学人文学部表現文化論演習(石田ゼミ)による研究発表会 「新潟に残る東映動画の足跡」 参加者数：39名 開催日：7月14日(日) 午前 会場：新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム 発表者：新潟大学人文学部表現文化論演習(石田ゼミ14名)</p> <p>② 座談会「ディズニーを目指した男 大川博」 参加者数：71名 開催日：7月14日(日) 午後 会場：新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム ゲスト：杉井ギサブロー氏(アニメーション監督、東映動画OB)、津堅信之氏(アニメーション研究家、日本大学芸術学部映画学科講師) 進行：石田美紀氏(新潟大学人文学部准教授)</p> <p>③ 座談会「映画監督 中島貞夫 大川博と東映を語る」 参加者数：117名 開催日：8月18日(日) 会場：新潟日報メディアシップ2階 日報ホール 出演：中島貞夫氏(映画監督・脚本家、東映OB)、上倉庸敬氏(大阪大学名誉教授)、</p>

	<p>吉田馨氏（元京都映画祭実行委員会事務局長）、武藤斌事務局長</p> <p>④ 月いちレクチャー「にいがたの映画人」全3回 参加者総数：26名</p> <p>開催日：6月22日(土)、7月27日(土)、8月24日(土) 会場：当館 担当：石垣雅美</p>
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ (A4、両面カラー、割引券付) 10,000部、ポスター400部 (B2、片面カラー)：県内顕彰施設や図書館、新潟大学などに発送 ・新聞広告：新潟日報 (14回掲載) ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント、新潟文化物語 ・雑誌等：「新潟文化情報誌カルチャーにいがた」、「M-Walk」、「月刊キャレル」(イベント情報)、月刊ウインド6月号・7月号 (広告掲載)
掲載記事 または番組	<p>5月28日(火) 新潟日報 座標軸『なつぞら』本県との縁を感じ身近に」(執筆者：新潟日報報道部デスク 高橋渉氏)</p> <p>6月21日(金) 新潟日報 展覧会へようこそ『アニメ』の幼年期に光」(執筆者：新潟大学人文学部准教授 石田美紀氏)</p> <p>6月21日(金) 新潟日報おとプラ まちの掲示板 (企画展示案内)</p> <p>6月28日(金) 新潟日報「東映動画の軌跡たどる 新潟・文化の記憶館で展示『なつぞら』モデル 新大と企画」(第1部展示案内、7/14午前イベント案内)</p> <p>6月28日(金) 新潟日報『お江戸じょんのびー』挿絵 杉井さんが対談14日、メディアシップ」(7/14午後イベント案内)</p> <p>6月28日(金) 新潟日報おとプラ メディアシップウィークリー (7/14午後イベント案内)</p> <p>6月29日(土) 新潟日報 お江戸じょんのび便り 119ギッチャン昔ばなし②『東映動画入社試験』(執筆者：河治和香氏、記事末尾にて7/14午後イベント案内)</p> <p>7月5日(金) 新潟日報おとプラ メディアシップウィークリー (7/14午前イベント案内)</p> <p>7月15日(月) 新潟日報「アニメの礎 県民に探る 故大川さん語る座談会」</p> <p>7月24日(水) 新潟大学ホームページ「展示『にいがたの映画人第1部』企画及び人文学部表現文化論演習(石田ゼミ)による研究発表会を開催しました」</p> <p>7月26日(金) 新潟日報おとプラ メディアシップウィークリー (第2部案内)</p> <p>7月27日(土) 新潟日報「1950年代 東映映画の世界 新潟 文化の記憶館で企画展」</p> <p>8月6日(火) 新潟日報「銀幕スターの思い出語る 18日、新潟中央区 中島監督と座談会」(8/18イベント案内)</p> <p>8月6日(火) 新潟日報おとプラ まちの掲示板 (8/18イベント案内)</p> <p>8月15日(木) 新潟日報 こしじウィークリー (8/18イベント案内)</p> <p>8月19日(月) 新潟日報「東映初代社長 大川博氏の功績に光 新潟 中島貞夫監督の座談会」</p> <p>8月19日(月) 新潟日報おとプラ 読者のひろば「アニメ先駆者の偉業に感銘」</p> <p>10月1日(火) 月刊ウインド10月号「映画とともに」(第2部展示、関連イベント感想)</p>
入館者数	981人 (うち有料531人)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	<p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東映初代社長の大川博を紹介するのに、第1部「東映動画」、第2部「東映の時代劇映画」の二部構成としたことで、大川博が社長であった頃の初期東映作品を紹介することができた。 ・第1部では、新潟大学人文学部の石田美紀准教授との協働により、他館でも例をみない、現役の学生との共同企画として展示を開催できた。 ・本展準備中に、偶々、東映動画出身者がモデルのNHK朝の連続テレビ小説「なつぞら」が始まり、多くの人に関心を持ってもらうことができた。 ・イベントでは、東映動画OBの杉井ギサブロー氏や大川博の伝記を書いた津堅信之氏、東映OBの中島貞夫氏ら大川を知る方々に大川博と東映動画、東映についてお話しいただき、これまで評価されていなかった大川を再評価できた。各イベントのアンケートでも好意的なご意見が多く見られた。 ・新大生による発表会アンケート：「記憶館は、県人を、県内の文化施設との共働で展示があり楽しみにしている。特に今回は、展示だけでなく、発表という形式がよい。大学生の発表は、若い目線でよい」60代・女性 ・杉井ギサブロー氏らによる座談会アンケート：「とても興味深い話が聞けました。大川博の先見

	<p>性についての杉井監督の言葉に強い印象を受けました」50代・男性</p> <p>・中島貞夫氏らによる座談会アンケート：「監督本人の話は何と云って、面白かった。映画関係の本も相当数読んでいるが本に比べられない『語り』の面白さを痛感した。近衛十四郎の映画もほんの少しは含まれていたが、迫力を十分に感じとり今後機会があれば近衛氏の映画をみたいと思っている」70代・男性</p> <p>■ 検討課題</p> <p>・第1部は前年度から企画案は練っていたが、大学の年度替わりに合わせて春からの実働であったため、新潟大学の石田准教授と学生には短期間で準備していただくこととなった。このような共同企画は初めての試みであったため、準備等の工程を再検討して次に生かしたい。</p>
担 当	石垣 雅美、伊豆名 皓美（第1部のみ）

III 天皇陛下御即位記念 第34回 国民文化祭・にいがた2019 第19回 全国障害者芸術・文化祭にいがた大会 「病とたたかう—近代医学と新潟県人」

会 期	令和元年9月10日(火)～令和元年12月1日(日) 72日間
主 催	にいがた文化の記憶館、文化庁、厚生労働省、新潟県、第34回国民文化祭、第19回全国障害者芸術・文化祭新潟県実行委員会、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
後 援	新潟県
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
監 修	蒲原 宏 氏（医学史研究者・日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館顧問）
協 力	日本歯科大学新潟生命歯学部「医の博物館」、大阪大学適塾記念センター、加茂市立図書館、古河歴史博物館、医療法人竹山記念会竹山病院、燕市分水良寛史料館、ナガイレーベン株式会社、長岡市教育委員会、中之島ふる里伝え隊、公益財団法人中野邸記念館、新潟市曾我・平澤記念館、新潟青陵大学図書館、新潟大学医学部、新潟大学医歯学図書館、新潟県立図書館、新潟県立歴史博物館
趣 旨	<p>わが国の医学はまず中国から伝わった「漢方」で始まった。江戸時代、長崎のオランダ人らを通じて入ってきた西洋医学「蘭方」への関心が高まった。西洋医学を学ぼうとする者はみな長崎を目指すようになり、シーボルトやポンペらによって後に近代医学界で活躍する人材が育てられた。明治時代に入ると当時最先端のドイツ医学が採用された。やがてドイツ式の医学教育が確立、医学教育制度の整備が進められていくなかで、新潟県人が先駆的な活動をした。</p> <p>本展では、幕末の種痘医・桑田立斎（新発田市）、医学用語を翻案した語学の天才・司馬凌海（佐渡市）、日本で最初の医学博士・池田謙斎（長岡市）、日本初の私立医学校を創立した長谷川泰（長岡市）、鷗外の上司・陸軍軍医総監・石黒忠恵（小千谷市）、東大に内科学を創立した入澤達吉（見附市）、近代産科学を導入し、産婆の呼称を「助産婦」と提案した高橋辰五郎（新潟市、漫画家高橋留美子の曾祖父）、越後における医学の父・竹山屯（新潟市）と澤田敬義（新潟市）、受胎調整の学説を確立した産婦人科医・荻野久作（新潟市）、脳神経解剖学の権威・平澤興（新潟市）らを紹介した。</p> <p>関連事業として、本展監修者の蒲原宏氏（医学史研究者・日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館顧問）、展示協力いただいた医の博物館の佐藤利英副館長による講演会などを開催した。</p>
紹介文化人	桑田立斎（新発田市）、司馬凌海（佐渡市）、池田謙斎（長岡市）、長谷川泰（長岡市）、石黒忠恵（小千谷市）、入澤達吉（見附市）、高橋辰五郎（新潟市）、竹山屯（新潟市）、澤田敬義（新潟市）、荻野久作（新潟市）、平澤興（新潟市）
協 力 団 体 及 び 個 人	協力と同じ
展 示	<p>I. 医学のあけぼの</p> <p>導入として「医学の父・ヒポクラテス」や「近代看護教育の母・ナイチンゲール」などを紹介。</p> <p>II. 越後における医学の父</p> <p>長岡藩の腑分けの様子や、現在の加茂市にあった日本で最初の精神病院に関する資料を展示。また新潟の医学の基礎を築いた竹山屯（新潟病院長や医学校の校長を歴任）の業績を紹介した。</p> <p>III. 中央医学界で活躍した新潟県人たち</p> <p>中央医学会で活躍した8人— 桑田立斎（新発田市）、司馬凌海（佐渡市）、池田謙斎（長岡市）、</p>

	<p>入澤恭平（見附市）、入澤達吉（見附市）、長谷川泰（長岡市）、石黒忠恵（小千谷市）、平澤興（新潟市） — の新潟県人を資料とともに紹介した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「女性たち」コーナー：「女性と医療—産婦人科医・高橋辰五郎、荻野久作」 生まれてくる命と母の命を守るため、歴史を築き上げた産婦人科医の高橋辰五郎（新潟市）と荻野久作（愛知県出身、新潟市・竹山病院）を紹介した。 ・「美術」コーナー：「医学を助けた三芳悌吉の顕微鏡図」 三芳悌吉は、昭和期の洋画家であり挿絵画家。17歳で新潟医科大学解剖学教室に就職、顕微鏡図を描く仕事に就いた後、画家を志して上京。雑誌、新聞連載小説、絵本などの挿絵の仕事も多く手掛けた。ここでは、悌吉の芸術を回顧する一助として「新潟医科大学解剖学教室での顕微鏡図」を紹介した。
関連事業	<p>① 講演会「新潟の医学近代化のあけぼの—命を支えた医師たちの足跡—」 参加者数：203名 開催日：9月26日(木) 講師：蒲原宏氏（本展監修者・医学史研究者・日本歯科大学医の博物館顧問） 会場：新潟日報メディアシップ2階 日報ホール</p> <p>② 月いちレクチャー特別編「長岡藩出身・明治の医学教育者 長谷川泰」 参加者数：22名 開催日：10月26日(土) 講師：佐藤利英氏（日本歯科大学新潟生命歯学部准教授・医の博物館副館長） 会場：当館</p> <p>③ 月いちレクチャー「近代医学のパイオニア」全2回 参加者総数：16名 開催日：9月28日(土)、11月23日(土・祝) 会場：当館 担当：伊豆名皓美</p> <p>④ 白衣を試着してみよう！（会期中いつでも） 展示室内に白衣を試着できるフォトスポットを設置。 子ども用白衣提供：ナガイレーベン株式会社</p> <p>⑤ ペーパークラフト ボーニー 人体骨格模型の展示（会期中いつでも） 展示室内に紙製の人体骨格模型を展示して写真が撮れるようにした。</p>
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）23,000部、ポスター（B2、片面カラー）500部：県内顕彰施設や図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報（22回掲載） ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント、新潟文化物語、インターネットミュージアム ・雑誌等：「新潟文化情報誌カルチャーにいがた」、「M-Walk」、「月刊キャレル」（イベント情報）
掲載記事または番組	<p>9月9日(月) BSN新潟放送 ニュース（内覧会と展示案内）</p> <p>9月12日(木) 新潟日報「医学界 県人の功績紹介 中央区 文化の記憶館で企画展」</p> <p>9月17日(火) NHK新潟ニュース610（天皇皇后両陛下 メディアシップ、当館視察）</p> <p>9月17日(火) BSN新潟放送 ゆうなび（天皇皇后両陛下 メディアシップ、当館視察）</p> <p>9月17日(火) NST Live News it!（天皇皇后両陛下 メディアシップ、当館視察）</p> <p>9月17日(火) TeNY タカワイド新潟一番（天皇皇后両陛下 メディアシップ、当館視察）</p> <p>9月17日(火) UX スーパーJにいがた（天皇皇后両陛下 メディアシップ、当館視察）</p> <p>9月18日(水) 新潟日報「両陛下、メディアシップ来館 皇室ゆかりの県人 熱心に」</p> <p>9月18日(水) 新潟日報「天皇・皇后両陛下が来県 にこやかに 和やかに」</p> <p>9月20日(金) 新潟日報おとプラ「近代医学発展の陰に県人あり（執筆：本間大樹氏）」</p> <p>9月27日(金) 新潟日報「展覧会へようこそ 偉大な11人業績一堂に」（執筆：伊豆名皓美）</p> <p>9月27日(金) 新潟日報「新潟 近代医学発展 県人の力あり 研究者の蒲原さん講演会」</p> <p>10月19日(土) 新潟日報おとプラ「まちの掲示板」（月いちレクチャー特別編案内）</p> <p>10月24日(木) 新潟日報「窓」欄 「医学発展へ貢献した県人」（蒲原宏氏講演会の感想）</p> <p>10月25日(金) 新潟日報おとプラ メディアシップウィークリー（企画展示案内）</p>
入館者数	1,924人（うち有料731人）
総括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	<p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医の博物館所蔵のナイチンゲールの声（CD）を視聴できるようにしたところ、幅広い世代から好評だった。 ・医学史研究者の蒲原宏氏に監修してもらったことで貴重な資料の所在がわかり、借用の交渉が可能となった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・医学の歴史に関する企画展は、日本歯科大学新潟生命歯学部「医の博物館」を除き他の博物館などで開催例がなかった。 ・監修の蒲原宏氏による講演会の参加者から「医学の進展の歴史について貴重なお話をお聞きすることができた。(70代・女性)」、「先人の医学者の医学に対する熱意とたゆまぬ努力の変遷がとてもよく理解できました。医学の進歩は日進月歩、先人に感謝です。(60代・男性)」、「一日一日を大切に生きていきたいと実感しました。(70代・女性)」などの感想をいただいた。 ・医の博物館佐藤利英副館長による月いちレクチャー特別編の参加者から「佐藤利英先生のご講演は大変わかりやすく興味深い内容でした。先生が副館長を務める日本歯科大学医の博物館も興味深く感じました。(70代・男性)」などの感想があった。 <p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記憶館の展示室の広さに対して医学者 11 人の紹介は少々手狭だった。紹介文化人の数を絞って各人物についてももう少し深く紹介できるよう検討して次に生かしたい。
担 当	伊豆名 皓美、武藤 斌

III 併催「坂口安吾と新潟日報」

会 期	令和元年 11 月 1 日 (金) ～ 令和元年 12 月 1 日 (日) 27 日
主 催	新潟日报社、にいがた文化の記憶館
資 料 作 成 協 力	安吾 風の館 (新潟市)、坂口綱男氏
趣 旨	<p>戦後の文壇で「無頼派」と称された代表的な作家で、新潟市出身の坂口安吾が敗戦直後の 1945 年 9 月、長兄で新潟日报社第 2 代社長の坂口献吉に宛てた手紙の原本が半世紀ぶりに見つかった。戦後の混乱期に地方紙が果たすべき役割を進言した 3 通の手紙は、46 年 4 月に発表した代表作の一つ『墮落論』の原型ともいえる内容で、貴重な文学資料。</p> <p>新潟日报社はこれら 3 通とともに、安吾が献吉ら新潟日报社幹部に宛てた 6 通の手紙・はがきを入手した。これら計 9 通を当館にて公開した。</p>
紹介文化人	坂口安吾 (新潟市)、坂口献吉 (新潟市)、小柳胖 (新潟市)
協 力 団 体 及 び 個 人	資料作成協力と同じ
展 示	<p>新潟日报社文化担当部長より過去の記事パネル 10 点を預かり、9 通の書簡とともに展示した。チラシ裏面には出品目録と 9 通の書簡に関連する坂口安吾と新潟日报社の年譜を記載。安吾と新潟日报社をより深く理解してもらえよう工夫した。</p>
関 連 事 業 広 報	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ (A4、両面カラー) 1,000 部：メディアシップ内に設置 ・ホームページ：当館、メディアシップ
掲 載 記 事 または 番 組	<p>10 月 31 日(木) 新潟日報「地方の文化振興 願う安吾 直筆の手紙 公開 あすから『文化の記憶館』新潟」</p> <p>11 月 1 日(金) 新潟日報 特集「坂口安吾 3 通の手紙公開 地方紙の大敢闘望む 文化運動の総元締め」新潟日報創刊記念日に合わせ きょうから『文化の記憶館』で 『墮落論』想起の原点 全文を紹介 新潟日报社第 2 代社長 兄・献吉に熱く提言」(執筆：新潟日报社 齋藤祐介文化担当部長)</p> <p>11 月 1 日(金) 新潟日報おとぶら「安吾の精神 故郷に息づく」(執筆：ライター・本間大樹氏)</p> <p>11 月 2 日(土) 新潟日報「伝わる 安吾の息づかい 直筆の手紙公開 文化の記憶館 新潟」</p> <p>11 月 7 日(木) BSN 新潟放送 昼ニュース (坂口安吾の手紙公開)</p> <p>11 月 7 日(木) BSN 新潟放送 ゆうなび (坂口安吾の手紙公開)</p> <p>11 月 8 日(金) 新潟日報 座標軸「安吾の手紙 『日本一』に見る肉親の情」(執筆：新潟日报社 森沢真理論説編集委員室長)</p> <p>11 月 22 日(金) 新潟日報おとぶら「新潟日报社所蔵 坂口安吾の手紙公開 坂口安吾と新潟日報」(メディアシップウィークリー)</p>
入 館 者 数	709 人 (うち有料 318 人) ※「病とたたかう—近代医学と新潟県人」展の併催のため 11 月 1 日から 12 月 1 日までの入館者数とする。
総 括	○ 評価点

(展示全般および地域への関わりと効果など)	・新潟日報社が所蔵する坂口安吾の書簡を展示したことで、初めての来館者が増えた。
担 当	石垣 雅美

IV 「新潟の米と酒」

会 期	令和元年1月21日(火)～令和元年3月15日(日) 48日
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	新潟県農業総合研究所、同研究所作物研究センター、新潟県醸造試験場、新潟県立図書館、新潟市歴史博物館、糸魚川市教育委員会、柏崎市立博物館、サッポロビール株式会社、hickory03travelers、『月刊キャレル』編集部
趣 旨	<p>1980年ころから新潟は「日本一の米どころ」といわれるようになったが、1930年頃まで北陸以北の米は味が悪く「トリまたぎ米」と呼ばれていた。</p> <p>明治に入ると、農業に科学的な思考と方法が導入され、虫害や冷害に負けないイネづくりが始まった。北海道大学教授の伊藤誠哉(新潟市出身)は当時多くの農家が苦しんだいもち病の伝染経路を研究して防除法を開発。全国的に品種改良が進められるなか、県農事試験場(長岡市)の主任技師並河成資らが「水稻農林1号」の育種に成功した。「農林1号」は太平洋戦争直後の食糧危機を救い、「コシヒカリ」誕生に貢献した。</p> <p>米と麴、水を発酵させてできるのが日本酒。醸造方法は江戸時代にほぼ確立したが、製造中に醗や醗が腐敗するなど品質は不安定だった。1904(明治37)年の大蔵省醸造試験所設立後は品質の安定や向上のため科学的な酒造りが勧められた。現在も普及している速醸醗を研究し体系だて蔵元に普及したのが醸造試験所の技師・江田鎌治郎(糸魚川市出身)。応用微生物学者で「酒博士」の坂口謹一郎(上越市出身)は江田を「酒造界の神様」と評していた。</p> <p>明治以降に飲まれるようになった酒にワインやビールがある。川上善兵衛(上越市出身)は日本に合うワインぶどうを育て、中川清兵衛(長岡市出身)と生田秀(佐渡市出身)は日本製ビール醸造技術を開拓した。</p> <p>本展では新潟の米と酒の発展に貢献した新潟県人らに関連資料とともに紹介。あわせて、『月刊キャレル』に掲載された「歴史上のごはん」から、当館で紹介している文化人のごはんをパネル展示した。</p>
紹介文化人	<p>伊藤誠哉(新潟市)、並河成資[長岡市]、鉢蠟清香[長岡市]、坂口謹一郎(上越市)、江田鎌治郎(糸魚川市)、相馬御風(糸魚川市)、川上善兵衛(上越市)、中川清兵衛(長岡市)、生田秀(佐渡市)</p> <p>「歴史上のごはん」(『月刊キャレル』連載から)＝西脇順三郎(小千谷市)、吉田東伍(阿賀野市)、露谷虹児(新発田市)、大橋佐平(長岡市)、大庭みな子(新潟市・新発田市)、赤塚不二夫(新潟市)、遠藤実(新潟市)、大杉栄(新発田市)、諸橋轍次(三条市)、長谷川泰(長岡市)</p>
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展 示	<p>稲作や酒造りなどの近代的な技術の発展に貢献した新潟県人を紹介した。関連資料として、当時の写真や著書、関連する計器などを団体などからお借りして展示した。</p> <p>また、米づくりや酒造りの理解のために、稲の系統図や酒造りパネルなども展示した。</p>
関連事業	<p>①月いちレクチャー全3回 参加者総数：4名 開催日：1月25日(土)、2月22日(土)、3月14日(土) 会場：当館 担当：石垣雅美 ※第3回目3月14日(土)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。</p>
広 報	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ(A4、両面カラー、割引券付)8,000部、ポスター(B2、片面カラー)300部：県内顕彰施設、図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報(6回掲載) ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント

掲載記事 または番組	2月14日(金) 新潟日報おとぶら メディアシップウィークリー (企画展示案内) 2月18日(火) 新潟日報「稲作と酒造り 先人たたえ 文化の記憶館 8人紹介の企画展」 2月28日(金) 新潟日報おとぶら メディアシップウィークリー (企画展示案内)
入館者数	431人 (うち有料315人)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	○ 評価点 ・新潟県農業総合研究所、新潟県醸造試験場の研究機関が所蔵する資料をお借りして、展示することで、来館者に各研究機関を知ってもらう機会となった。 ・アンケートでは、「美術分野・博物館分野だけでなく、文化功労者『伊藤誠哉』のこと、コシヒカリのルーツが良く分かりました。今後も、新潟人の功績を広く知らせて下さい」などの感想があった。 ■ 検討課題 ・米と酒というテーマで展示を構成するのが難しく、想定以上に時間を要してしまった。
担当	石垣 雅美

IV 併催「吉沢久子と古谷綱武展」

会期	令和元年1月21日(火)～令和元年3月15日(日) 48日
主催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
協力	故 吉沢久子氏
展示協力	福井県坂井市立春江図書館、「月刊キャレル」編集部
趣旨	新潟日報で『家事レポート』を50年以上連載してきた家事評論家の吉沢久子氏が、2019年3月に101歳の長寿を全うされた。昭和40年代から夫の古谷綱武氏とともに新潟日報紙面で連載していた吉沢氏の遺族からの寄付が契機となり展示を企画。 吉沢さんが新潟日報誌面で連載をすることとなったきっかけは夫・古谷綱武さんの新潟日報連載『新潟遠望』。本展では古谷さんの『新潟遠望』や吉沢さんの『家事レポート』のパネルを関連資料とともに展示した。 関連イベントとして、吉沢氏に私淑していた生活評論家の阿部絢子氏(新潟市出身)の講演会を準備したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月末に開催延期を決めた。
紹介文化人	吉沢久子〔新潟県〕、古谷綱武〔新潟県〕
協力団体 及び個人	福井県坂井市立春江図書館、「月刊キャレル」編集部、新潟日報社・石原亜矢子論説編集委員
展示	吉沢久子氏『家事レポート』の一部と古谷綱武氏『新潟遠望』の一部をパネルにして展示。また『家事レポート』担当者だった新潟日報・石原氏などから直筆ハガキ等の資料を借りて、過去に開催されたパネル展と異なる展示構成とした。
関連事業	①講演会「吉沢久子さんに学んだ シニアの老後を楽しむ処方箋」 開催日：3月1日(日) 講師：阿部絢子氏(生活研究家、新潟市出身) 会場：新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月末、開催延期を決めた。
広報	「新潟の米と酒」に同じ
掲載記事 または番組	2月5日(水) 新潟日報「吉沢久子さん 来月一周忌 自ら準備した訃報公開 家事レポート関連や手紙 夫の古谷綱武さん随想も 『にいがた文化の記憶館』で展示」、「来月1日に講演会」 3月13日(金) 新潟日報 座標軸「吉沢さん一周忌 変わらぬ生き方への共感」(執筆：石原亜矢子論説編集委員)
入館者数	431人 (うち有料315人)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	○ 評価点 ・吉沢さんのご遺族や、新潟日報社の石原亜矢子論説編集委員に協力いただき、吉沢さんらしさが伝わる直筆書簡などの資料を展示することができた。 ・企画展示を開催したことにより、吉沢さんファンの女性が多く見に来られた。吉沢さんは多くの新潟日報読者に愛されたいのだと展示を通して知ることができた。 ・新潟日報紙面に関連イベント(3月1日の阿部絢子氏講演会)の告知が掲載されると数日で定

	員に達した。 ■ 検討課題 ・『家事レポート』の調査に時間がかかり、開催までに時間を要した。 ・3月1日の阿部絢子氏講演会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直前で延期にした。 危機管理については検討課題をしたい。
担 当	石垣 雅美、武藤 斌、伊豆名皓美、外山陽子

4. 教育普及事業

① 神林館長講座（参加者数：518人） ※平成30年度実績：1,209人（連続講座を2本開催）

No.	事業名	開催日	内容	参加者数
1	神林館長美術講座 2019「古都の仏たち 會津八一のうたとともに」①～③	5月9日 ～ 7月4日	講師：神林 恒道 館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	延べ 518人

② 企画展示関連事業（参加者総数：430人） ※平成30年度実績：276人

ケル	事業名	開催日	内容	参加者数
II	新潟大学人文学部表現文化論演習（石田ゼミ）による研究発表会「新潟に残る東映動画の足跡」	7/14(日)	発表者：新潟大学人文学部表現文化論演習（石田ゼミ）14名 会場：メディアシップ 6階 ナレッジルーム	39人
II	座談会 杉井ギサブロー×津堅信之×石田美紀「ディズニーを目指した男 大川博」	7/14(日)	ゲスト：杉井 ギサブロー 氏（アニメーション監督、東映動画 OB）、津堅 信之 氏（アニメーション研究家、日本大学芸術学部映画学科講師） 進行：石田 美紀 氏（新潟大学人文学部准教授） 会場：メディアシップ 6階 ナレッジルーム	71人
II	座談会 中島貞夫×上倉庸敬×吉田馨「映画監督 中島貞夫 大川博と東映を語る」	8/18(日)	出演：中島 貞夫 氏（映画監督・脚本家、東映 OB）、上倉 庸敬 氏（大阪大学名誉教授）、吉田 馨 氏（元京都映画祭実行委員会事務局長）、武藤 斌 事務局長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	117人
III	医学史研究者・蒲原 宏 氏講演会「新潟の医学近代化のあけぼのの命を支えた医師たちの足跡」	9/26(木)	講師：蒲原 宏 氏（医学史研究者、医の博物館顧問） 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	203人

③ 作品解説会「月いちレクチャー」（参加者総数：121人） ※平成30年度実績：198人

ケル	事業名	開催日	内容	参加人数
I	特別編「新潟におけるマンガ・アニメ事業の現状—地方からの挑戦」	4/27(土)	講師：坂田 文彦 氏（新潟市マンガ・アニメ情報館 統括館長）	25人
	特別編「なつかしの紙芝居」	5/25(土)	実演：新潟かみしばいクラブ（坪谷氏、野上氏、坂井氏、佐藤氏、佐久間氏）	28人
II	「にいがたの映画人① 東映動画」	6/22(土)	担当：石垣 雅美	3人
	「にいがたの映画人② 大川博」	7/27(土)	担当：石垣 雅美	11人
	「にいがたの映画人③ にいがたのスターたち」	8/24(土)	担当：石垣 雅美	12人

Ⅲ	「近代医学のパイオニア①」	9/28(土)	担当：伊豆名 皓美	6人
	特別編「長岡藩出身 明治の医学教育者 長谷川泰」	10/26(土)	講師：佐藤 利英氏（日本歯科大学新潟生命歯学部准教授・医の博物館副館長）	22人
	「近代医学のパイオニア②」	11/23(土)	担当：伊豆名 皓美	10人
Ⅳ	「新潟の米と酒① 農林1号と並河成資」	1/25(土)	担当：石垣 雅美	0人
	「新潟の米と酒② 伊藤誠哉」	2/22(土)	担当：石垣 雅美	4人
	「新潟の米と酒③ 江田鎌治郎」	3/14(土)	担当：石垣 雅美	中止

④ 学校との連携事業（参加者総数：16人） ※平成30年度は229人

事業名	期間	内容
校外学習（総合学習） 新潟市立中野小屋中学校2年生6名	4月24日(水)	担当：武藤事務局長、石垣雅美 内容：事前の質問事項（6項目）に回答
施設訪問 新潟市立坂井輪中学校2年生5名	5月17日(金)	担当：伊豆名皓美 内容：事前の質問事項（8項目）に回答
施設訪問 新潟市立新津第五中学校2年生5名	10月2日(水)	担当：伊豆名皓美 内容：当日質問事項に回答

※2019年度に来館した小中学校数及び生徒数：26校、648名

⑤ その他事業（執筆活動、講演会など）

■ 執筆活動

No.	タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
1	一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「センター月報」連載 「にいがた文化の記憶」（転載）	4月、6月、 8月、10月、 12月、2月	神林館長の著書『にいがた文化の記憶』から選んだ記事を隔月で掲載。	神林 館長
2	フリーペーパー『喜怒哀楽』連載寄稿 「にいがた文化の記憶館便り」	4月、6月、 8月、10月、 12月、2月	企画展示の紹介に合わせ、当該展示で採り上げた新潟ゆかりの文化人について解説	伊豆名 皓美
3	新潟日報「展覧会へようこそ」 『アニメ』の幼年期に光	6月21日	企画展示「にいがたの映画人第1部」を紹介。	石田 美紀 (新潟大学准教授)
4	新潟日報「展覧会へようこそ」 『病とたたかう—近代医学と新潟県人』偉大な11人 業績一堂に	9月27日	企画展示「病とたたかう—近代医学と新潟県人」を紹介。	伊豆名 皓美
5	公益社団法人新潟法人会「会報」2020年 vol.141 新潟探訪 No.40—にいがた文化の記憶館— vol.1	10月31日	企画展示「病とたたかう—近代医学と新潟県人」を紹介。	伊豆名 皓美
6	公益社団法人新潟法人会「会報」2020年 vol.142 新潟探訪 No.41—にいがた文化の記憶館— vol.2	2月10日	常設展示「美術」分野の文化人を紹介。	武藤 事務局長

■ 講演会など（参加者総数：50人） ※平成30年度は139人

No.	事業名	開催日	内容	参加者数
1	新津会 総会 講演会 演題：新潟が生んだ医学者たち	5月14日	講師：武藤 斌 事務局長 会場：割烹 一楽	50人
2	新潟商工会議所主催 古町漫画映画オデオン「太陽の王子ホルスの大冒険」作品解説	3月15日	解説：石垣 雅美 会場：シアター NEXT1	中止

5. 調査及び研究・研修事業

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

6. 収集・保存、資料貸出

■ 資料貸出

貸出先	件数	資料名	目的
済生会新潟病院	1件	にいがたゆかりの医療人 (長谷川泰など9点)	第72回済生会学会 令和元年度済生会総会でのパネル展示のため

7. 広報

① 新聞掲載記事一覧 (企画展示関連記事をのぞく)

No	掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
1	新潟日報	2/15(土)	「文化の記憶館館長・神林恒道さん 京都市が芸術振興賞」	—

② パスポート会員募集広告掲載一覧

掲載紙名	新潟日報 地域欄 ※展示資料に関連する文化人の出身地の地域に掲載
掲載日	毎週水曜 ※地域欄の掲載内容により曜日変更あり
掲載内容 (掲載順)	4月～5月「マンガとはナンダ 児童マンガの世界から」展示資料(下越、中越、新潟) 6月～8月「にいがたの映画人」展示資料(下越、新潟) 9月～11月「病とたたかう一近代医学と新潟県人」展示資料(中越、下越、新潟)

※新潟日報朝刊(毎週水曜)に「子どもは未来の文化大使、年間パスポート会員募集」(通年で掲載)と企画展示資料を紹介した。

8. 事業別評価

事業名		評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展 示	常設展示 (相関図)	○ 改元にあたり、「歌会始とにいがたの文化人」というテーマを設定することで、新潟の文化人たちを理解してもらえた。 ○ 1年度に文化功労者に認定された新潟県人を紹介する受賞者パネルを設置した。 ○ 一部のコーナーでは企画展示に関連した展示を行った。	▲ バナー展示をしている相関図(中国学)の前に関連資料の展示を始めた。 ▲ 受賞者パネルに設置できなくなった人間国宝のパネル(簡易版)を別途作成して、展示した。
	企画展示	○ 国民文化祭と連携した企画展示を開催することが出来た。	▲ 国民文化祭を通じて、県内顕彰施設や団体との連携を進めた。

		○ 身近にありながらも知られていないテーマを資料とともに紹介できた。	■ 調査に時間を要する展示が複数あった。早めの事前調査を進めたい。
教 育 普 及	イベント、 講演・解説	○ 29年度から始めた館長連続講座は1テーマ（仏像）であったが、多くの参加者があった。その参加者が当館イベントに申し込む流れが出来た。 ○ 小学校や中学校の校外学習の受け入れを続けていることで、学校と連携した見学が増えてきた。	▲ 館長連続講座で広告やノベルティを出して、広くPRした。
	顕彰施設 及び団体 との連携	○ 各施設や団体よりパンフレット設置、画像提供等での協力を得た。 ○ 企画展示を通じて、顕彰施設や団体と連携した。	■ 各施設や団体への連携や協力を仰ぐため、早めに依頼したり相談したりできるような仕組みづくりや準備を進めたい。 ■ 以前からの課題だが、県内顕彰施設の来館者増を図るためのツール（印刷物など）の作成が必要。
	副読本・ 偉人かるた	○ 文化功労者が増えたことから、副読本パンフレットを改定した。	▲ 「にいがた偉人かるた」の広告を出したことで、新規注文があった。 ■ 以前からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりを進めたい。
	人物選定 委員会		▲ 新たな人物に関する資料の収集を続けている。 ■ 立上げ準備ができていないため、スケジュールの再検討が必要。
調 査 ・ 研 究		○ 常設展示や企画展示にあわせて、文化人の調査ができた。	■ 文化人データベース構築を進めている。
広 報		○ 危機管理等において、ホームページやFacebookなどでの迅速な発信ができた。	■ 効果的な広報計画を進めたい。

【参考資料】 ◇主な来館者（来館順に掲載）

<p>個人・団体（行政・企業等）</p>	<p>〔4月〕新潟大学教育学部・角田勝久准教授、BSN 新潟放送・新人 8 名、新潟日报社・新人 8 名、新潟かみしばいくらぶ 3 名、高橋副理事長夫妻、長谷川理事長、BSN 新潟放送・小原弘志取締役、上越市文化振興課・岩崎一彦課長、寺田ヒロオ研究会・竹内和宏氏、新潟県文化振興課・小林保夫課長、新潟県文化振興課国民文化祭室・小川祐輔室長、にいがたマンガ大賞実行委員会・土田雅之会長、高島評議員、新潟市民映画館シネ・ウインド・井上経久支配人</p> <p>〔5月〕県立新潟中央高校・佐野由美子教頭、長谷川理事長、新潟大学人文学部・石田美紀准教授、渡辺評議員、新潟市潟東歴史民俗資料館・中島榮一館長、株式会社みかづき・小林厚志営業部長、新潟市文化政策課・塚原進課長</p> <p>〔6月〕坂本コレクション・坂本文巳男氏、新潟県警、県立駒林特別支援学校 2 名、認定 NPO 法人ハートリンクワーキングプロジェクト・林三枝副理事長他 1 名、BSN 新潟放送事業局・井上美保子氏、佐藤評議員、東映衛星放送株式会社編成営業・渉外室・安田武史室長、同社・安田多慧子係長、株式会社イシカワ・関本道章氏、警視庁、新潟大学人文学部・石田美紀准教授、株式会社ブルボン・染谷晃部長代理、ドナルド・キーンセンター柏崎・佐藤仁事務局長、県立新発田高校・中戸義文校長</p> <p>〔7月〕新潟市立木戸小学校・土田学校長、新潟県警、新潟県 NIE 推進協議会・伊藤充会長、新潟東映ホテル・大倉善紀支配人、長谷川理事長、新発田市菟谷虹児記念館・長谷川静生施設長、同館・伊藤千佳子学芸員、新発田市観光課・宮村香奈絵氏、坂本コレクション・坂本文巳男氏、杉井ギサブロー氏、日本大学芸術学部映画学科・津堅信之氏、公益財団法人新潟県文化振興財団・唐沢俊郎業務執行理事、書壇院・柳澤朱篁顧問、医の博物館・佐藤利英副館長、新潟日报社・大塚清一郎論説編集委員、テレビ朝日・川村晃司解説委員</p> <p>〔8月〕新潟大学教育学部・角田勝久准教授、松村雄基氏、高橋副理事長、島田評議員、BSN 新潟放送・大竹正敏常務取締役、秋艸会・上村光司会長、BSN 新潟放送・竹石松次顧問、新潟東映ホテル・大倉善紀支配人、医の博物館・樋口輝雄参与、坂本コレクション・坂本文巳男氏、中島貞夫監督夫妻、大阪大学・上倉庸敬名誉教授、吉田馨元京都映画祭実行委員会事務局長、新潟県警、長谷川理事長、新潟日报社・高内小百合論説編集委員、河治和香氏、新潟県広報課</p> <p>〔9月〕天皇皇后両陛下、宮内庁職員、皇宮警察、新潟県職員、新潟県警「病とたたかう—近代医学と新潟県人」展内覧会参加者 27 名、新潟県・花角英世知事、県民生活・環境部・村山雅彦部長、県秘書課・関根慶一課長他 2 名、県文化振興課・小林保夫課長、県文化振興課国民文化祭室・小川祐輔室長他 1 名、BSN 新潟放送・竹石松次顧問、小田理事、長谷川理事長、下総新聞社他 12 名、TOKIO・長谷川貴之社長、和歌山県職員、長崎県文化観光国際部・濱口孝企画監、石川県県民スポーツ部職員、宮崎県職員、文部科学省・萩生田光一大臣、文化庁・宮田亮平長官、花角英世知事、新潟県議会・岩村良一議長、長谷川理事長、新潟日报社・小田敏三社長、宮内記者会、竹山病院・竹山孝事務長、眞壁伍郎氏、新潟市新津美術館・横山秀樹館長、本井晴信元県立文書館副館長、古塩充元理事、南加乃子氏、こども環境学会北陸ブロック 6 名、近畿日本ツーリストツアー 16 名・引率 3 名、県文化振興課・小林保夫課長、同課・高橋洋一課長補佐</p> <p>〔10月〕新潟日报社・齋藤祐介文化担当部長、静岡新聞社・川内十郎編集局次長兼文化生活部長、山梨日日新聞社・清水健文化・くらし報道部長、信濃毎日新聞社・三村卓也文化部長、共同通信社・加藤義久文化部長、同社・山下修文化部デスク、同社大阪支社・伊奈淳文化部長、新潟経済社会リサーチセンター・駒野忠宏部長、同センター・姫田豪雄氏、新潟日报社・高内小百合論説編集委員、山田俊幸氏、河治和香氏、長岡新聞社・土井清文記者、BSN 新潟放送・竹石松次顧問、五代伊藤赤水氏夫妻、中之島郷土史研究会・高橋智文副会長、入澤家顕彰会・入澤昭信代表、中之島地区社会福祉協議会・清野正弘会長、山本修巳氏夫妻、県文化振興課・小河原太郎氏、ナガイレーベン株式会社・長尾氏、安藤評議員</p> <p>〔11月〕新潟国際情報大学・平山征夫顧問、新潟市文化スポーツ部・中野力部長、新潟市新津美術館・横山秀樹館長、BSN 新潟放送・井上美保子氏他 4 名、県文化振興課・小林氏、小林礼奈氏、新潟日报社・齋藤祐介文化担当部長、同社報道部・石塚恵子デスク、安吾 風の館・坂口綱男館長、同館・岩田多佳子学芸員、文芸評論家・七北数人氏、フリーアナウンサー・中津川英子氏、株式会社イシカワ・関本道章氏、長谷川理事長、絵手紙作家・谷雅子氏夫妻、新潟日报社・森沢真理論説編集委員室長、千葉大学文学部・大原祐治教授、橋本評議員、全国良寛会・小島正芳副会長、新潟大学医学部・牛木辰男教授、花園学園大学・菅修一准教授、吉田眞理理事他 1 名、BSN 新潟放送ラジオ事業局・石井氏、青山学院大学・飯島渉教授、済生会新潟病院 3 名、新潟</p>
----------------------	--

	<p>市歴史文化課・長谷川伸主幹学芸員、筑波大学アーカイブズ・田中友香里助教、東京大学史料編纂所・杉山巖専門職員、拓殖大学・有馬廣實名誉教授</p> <p>〔12月〕島田評議員、BSN新潟放送・井上美保子氏</p> <p>〔1月〕新潟日报社・小田敏三社長、同社秘書部・土田茂幸部長、原田マハ氏、幻冬舎・石原正康専務取締役他1名、新潟ライオンズクラブ・星野純朗会長他1名、株式会社新潟博報堂・中村文香氏、新潟日报社総合プロデュース室・鶴間尚室長、WEBdancyu・江部拓也編集長他1名</p> <p>〔2月〕平出修研究会・折笠正弘事務局長、長谷川理事長、全国良寛会・小島正芳副会長他1名、新潟県立歴史博物館・田邊幹専門研究員、サッポロビール株式会社新潟統括支社・後藤道人氏、同社・小林大介氏、村山理事、新潟市文化政策課・塚原進課長、新潟市生涯学習センター・山本英二所長補佐、渡辺評議員、BSN新潟放送・竹石松次顧問、新潟ライオンズクラブ2名、新潟県農業総合研究所・赤石隆一郎主任研究員、橋本評議員、新潟県市町村振興会・星野氏、長谷川理事長、小田理事</p> <p>〔3月〕高橋副理事長、新潟県醸造試験場・金桶光起場長</p>
ご遺族	寺田ヒロオご遺族、澤田敬義ご遺族、山田正平ご遺族、落谷虹児ご遺族、関屋俊彦ご遺族、吉沢久子ご遺族
団体観覧 (一般)	計0団体(0名)
団体観覧 (学校) ※引率者を含む ※太字は前年度以前から継続して見学している学校	<p>〔4月〕新潟市立中野小屋中学校2年生5名、福島県喜多方市会北中学校2年生6名、新潟市立東新潟中学校2年生3名・引率1名、新潟市立宮浦中学校2年生8名、新潟市立岩室中学校2年生13名</p> <p>〔5月〕新潟市立亀田中学校2年生38名、新潟市立関屋中学校2年生4名、新潟大学人文学部表現文化論演習(石田ゼミ)13名、新潟市立金津中学校2年生6名、新潟市立大形中学校2年生15名、新潟市立五十嵐中学校2年生30名・引率2名、新潟市立上山中学校2年生9名、新潟市立坂井輪中学校2年生38名・引率2名、新潟大学人文学部表現文化論演習(石田ゼミ)3名、新潟市立小針中学校2年生48名・引率1名</p> <p>〔6月〕新潟大学人文学部表現文化論演習(石田ゼミ)9名</p> <p>〔7月〕村上市立村上東中学校2年生15名、新潟市立木戸小学校6年生33名・引率9名、県立駒林特別支援学校高等部10名・引率5名、新潟大学人文学部表現文化論演習(石田ゼミ)7名</p> <p>〔9月〕村上市健民少年団岩船隊小学生6名・引率6名、長岡市立上川西小学校5年生126名・引率5名、新潟市立山の下中学校3名・引率1名、新潟市立中之口中学校1年生9名・引率1名</p> <p>〔10月〕新潟市立新津第五中学校2年生10名・引率1名、阿賀野市立水原中学校1年生5名・引率1名、南魚沼市立城内小学校4年生41名・引率3名、新潟市立五十嵐中学校1年生83名、新発田市立猿橋中学校1年生10名・引率1名、新潟市立下山中学校2年生8名</p> <p>〔11月〕新潟市立小須戸小学校2年生42名・引率2名、村上市立荒川中学校1年生10名</p> <p>〔1月〕新潟大学実習生3名</p> <p>〔2月〕新潟ライオンズクラブ・第43回双葉賞受賞者14名</p> <p>計30校・団体(724名)</p>